

頑張る

農業法人

「長くかかった圃場整備が完了したことから、農地の保全・管理を目指して営農組合を立ち上げ法人化を目指したが、地域合意が難しく実現できなかった。一念発起して家族経営を法人化し、地域の農地を守っていくことにした」と話す京丹后市久美浜町甲山地区の(株)ひらばやし農産の平林保信社長(65)。

戸。久美浜湾に面する農村地帯で平場に農地が広がる。農地が海面より低く、海水が水路を逆流して作物が塩害を受けていたため、1998年から圃場整備を開始した。塩害防止に盛り土で圃場を高くし、1枚約15㍓の圃場を倍以上に広げて2006年に40畝の圃場整備が完成した。

□ □

預かった農地を活用して、米を中心に黒大豆や青大豆、九条ねぎなど多品目の生産に取り組み。さらに今年から、JAの勧めで売れる米づくりを目指して4月後半に「コシヒカリ」の植え付けを行い、早期出荷に取り組む。

□ □

同地区は、約110世帯のうち生産農家は約40

しかし、高齢化や後継者不足で農業が継続できない農家が増えてきた。そのため、圃場整備の完成を機に甲山区営農組合を設立。平林さんが組合長となって農作業受託や集団転作の黒大豆生産に取り組んできた。平林さんは、農地の管理や農機の共同利用、後継者育成などを進めていくために同組合の法人化を目指し

京丹后市
久美浜町

株式会社 ひらばやし農産

地域農業保全に頑張る(右から)平林保信さん、千代美さん、克哉さん



家族で地域農地を守る

米や野菜の多品目生産

ん(62)が社員として事務や農作業を行う。農繁期にはパートタイマー4人を雇用している。

□ □

現在、水稲9畝、黒大豆と青大豆2・2畝、小豆80㍓、ハウス5棟で九条ねぎやみず菜、紫ずきなど京野菜を栽培する。今年からJA京都の勧めで8月下旬の収穫を目指した早植えの丹後コシヒカリや、加工用の黒大豆の機械収穫にも本格的に取り組む。

□ □

克哉さんは「今は両親が元気で頑張っているが、将来は妻と経営を引き継ぎたい」と話す。

平林社長は「会社の経営維持でこの地区の農地を、これからも守っていききたい。今後は農閑期の冬場に、野菜の加工事業も伸ばして年間雇用を実現し、地域の活性化にもつなげたい」と意欲的だ。▽法人所在地 京丹后市久美浜町甲山497。電話 0772(83)1094。

たが、地域合意がかなわなかったことから「自ら法人を立ち上げよう」と

11年8月、家族経営を法人化して(株)ひらばやし農産を設立した。

平林さんが社長、長男の克哉さん(33)が取締役となり、妻の千代美さ